

滋賀國道（國道二號線）

滋賀縣内國道二號線中大津市以西ハ大津、京都、奈良ヲ連絡スル唯一ノ樞要路線ニシテ交通極メテ頻繁ナルニ不拘大津市上片原町札ノ辻以西ハ兩側人家連檐シ幅員狹少ナルノミナラス迂回甚タシク加之同市上片原町藤尾町間ニ逢坂山ノ難險介在シ地形急峻ニシテ山岳相狹リ最急十四分ノ一ノ急勾配アリ然モ幅員僅々四、五米乃至七米ニ過キス尙此ノ間軌道トノ平面交叉二ヶ所アリ交通運輸上支障尠カラス之カ改良ハ眞ニ急ヲ要スルモノアルヲ以テ國直轄ノ下ニ昭和六年度ハ失業救濟事業トシテ大津市上片原町追分町間ヲ昭和七年度ハ産業開發事業トシテ同追分町ヨリ藤尾町間ノ改良工事ヲ施行セリ

尙瀨田町以東モ亦愛知、岐阜三重ヲ連絡シ交通頻繁ナルニ不拘幅員僅ニ四米乃至四、五米ニシテ殆ント全線ニ亘リ起伏相連リ所々ニ十二分ノ一内外ノ急坂路ヲ有シ且屈曲甚タシク交通上支障尠カラサルヲ以テ先ツ昭和八年度瀨田町老上村間ノ改良工事ヲ施行スル事トセリ

昭和六年度事業

失業救済事業トシテ工費三十四萬二千圓ヲ以テ大津市上片原町ヨリ追分町ニ至ル延長一、七四〇米ノ改良工事ヲ施行スルモノニシテ本區間ハ概ネ山間部ナルヲ以テ歩車道ノ區別ヲ設ケス有効幅員ヲ十一米トシ最峻坂タル逢坂山ヲ四米切下ケ最急勾配ヲ二十分ノ一ニ緩和セリ而シテ在來國道ノ南側ニ敷設シアリタル京阪電車京津線軌道ヲ北側ニ移設シ追分ニ於ケル平面交叉ヲ除去シ以テ交通ノ安全ヲ期シタリ
路面工事ニ付テハ軌道移設ノ關係上起點大谷町間五六八米ヲ小鋪石又ハ膠石鋪裝トセリ本工事ハ昭和六年四月二十六日着手シ同七年十二月十三日全ク完成セリ

昭和七年度事業

産業開發事業トシテ工費二十二萬圓ヲ以テ前年度改良區間ニ引續キ大津市追分町ヨリ同藤尾町滋賀京都府縣界ニ至ル延長一、〇〇七米ノ改良工事及昭和六年度施行區間中大谷町ヨリ追分町ニ至ル延長一、一七二米ノ鋪裝工事ヲ施行スルモノニシテ起點藤尾町横木間ハ幅員一一米トシ歩車道ノ區別ヲ設ケス藤尾町横木終點間ハ幅員ヲ一六米トシ歩車道ノ區別ヲ設ク大谷町ヨリ藤尾町横木ニ至ル區間ハ中央六米ヲ膠石鋪裝トシ兩側各二、五米ヲ混凝土鋪裝トセリ藤尾町横木ヨリ終點迄ハ車道ヲ膠石、歩道ヲ混凝土鋪裝トシ以テ京都府側二號國道ニ接續スルモノナリ本工事ハ昭和七年七月二十一日着手シ同八年三月三十一日竣功セリ

昭和八年度事業

工費豫算二十五萬圓^四ヲ以テ栗太郡瀬田町ヨリ同郡老上村間延長四、七三五^五米^ニ木七ノ改良工事ヲ施行スルモノニシテ舊國道ハ全線ニ亘リ幅員狹少急坂屈曲多ク之ヲ利用シテ改良スルハ困難ニ付新線ヲ開設シ將來ノ市街地構成ヲ考慮シ可及的直線道路トナサムトス幅員ヲ九米トシ歩車道ノ區別ナキ砂利道トナス
橋梁狼川橋ハ支間一一米二連ノ鐵筋混凝土T型桁橋トナス本工事ハ昭和八年五月十六日着手シ銳意施行中ナリ

國道二號線（滋賀縣）

事業年度	事業區分	昭和三十六年度		昭和三十七年度		昭和三十八年度事業	
		失業救済事業	産業開發事業	同	上	同	上
工事施行區間	滋賀縣大津市 至上片原町 至 追分町			滋賀縣大津市 自追分町 至 藤尾町		滋賀縣栗太郡 自瀬田町 至 老上村	
工事施行延長	一、七四〇米		一、〇〇七米	四、七三三米		四、七三五米	
道 路	一、七四〇米		一、〇〇七米	四、七三三米		四、七三五米	
橋 梁			一、〇〇七米	四、七三三米		四、七三五米	
有 効 幅 員	一一米		一六米	九米		九米	
車 道	區 別 ナ シ		一一、〇米	區 別 ナ シ		區 別 ナ シ	
步 道			二、五米				
最 急 勾 配	二十分ノ一		二十五分ノ一			三十分ノ一	
最 小 屈 曲 (半 徑)	九十米		一〇〇米			五〇〇米	
路 面 鋪 裝	小 鋪 石 又 ハ 膠 石		膠 石			砂 利 敷	

事業年度	事業區分	昭和三十六年度		昭和三十七年度		昭和三十八年度事業	
		豫 算	決 算	目 下 精 算 中	施 行 中	八 月 末 現 在	二 九 三 人
工事費		三四二、〇〇〇圓	三四〇、〇〇六圓	二二〇、〇〇〇圓		二五〇、〇〇〇圓	
着手年月日		昭和六年四月廿六日	昭和七年七月廿一日	昭和七年七月廿一日		昭和八年五月十六日	
竣工年月日		昭和七年十二月十三日	昭和八年三月卅十日	昭和八年三月卅七日		施 行 中	
使用労働者							
延 人 員		一二四、五九九人	六〇、一二三人	六〇、一二三人		三二、〇〇六人	
一日平均		三六五人	二二〇人	二二〇人		二九三人	

圖面ハ京都國道（二號線）ノ分ニ合併セリ